

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)長岡京物流センター計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									
1	音環境			-	-				
	1.1 室内騒音レベル			-	-				
	1.2 遮音			-	-				
	1 開口部遮音性能			-	-				
	2 界壁遮音性能			-	-				
	3 界床遮音性能(軽衝撃源)			-	-				
	4 界床遮音性能(重衝撃源)			-	-				
	1.3 吸音			-	-				
2	温熱環境			-	-				
	2.1 室温制御			-	-				
	1 室温			-	-				
	2 外皮性能			-	-				
	3 ゾーン別制御性			-	-				
	2.2 湿度制御			-	-				
	2.3 空調方式			-	-				
3	光・視環境			-	-				
	3.1 昼光利用			-	-				
	1 昼光率			-	-				
	2 方位別開口			-	-				
	3 昼光利用設備			-	-				
	3.2 グレア対策			-	-				
	1 昼光制御			-	-				
	3.3 照度			-	-				
	3.4 照明制御			-	-				
4	空気質環境			-	-				
	4.1 発生源対策			-	-				
	1 化学汚染物質			-	-				
	4.2 換気			-	-				
	1 換気量			-	-				
	2 自然換気性能			-	-				
	3 取り入れ外気への配慮			-	-				
	4.3 運用管理			-	-				
	1 CO <sub>2</sub> の監視			-	-				
	2 喫煙の制御			-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>3.7</b>	
1	機能性			-	-				
	1.1 機能性・使いやすさ			-	-				
	1 広さ・収納性			-	-				
	2 高度情報通信設備対応			-	-				
	3 バリアフリー計画			-	-				
	1.2 心理性・快適性			-	-				
	1 広さ感・景観			-	-				
	2 リフレッシュスペース			-	-				
	3 内装計画			-	-				
	1.3 維持管理			-	-				
	1 維持管理に配慮した設計			-	-				
	2 維持管理用機能の確保			-	-				
2	耐用性・信頼性			3.0	0.50			3.0	
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50				
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80				
	2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20				
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30				
	1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20				
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20				
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			5.0	0.10				
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10				
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔			4.0	0.20				
	6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20				
	2.4 信頼性			3.0	0.20				
	1 空調・換気設備			3.0	0.20				
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20				
	3 電気設備			3.0	0.20				
	4 機械・配管支持方法			4.0	0.20				
	5 通信・情報設備			2.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重4500N/m <sup>2</sup> 以上	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック採用	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	PF管採用	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				0.57		-	2.5
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.6
LR1 エネルギー				0.40			3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.53	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI <sub>m</sub> =0.66	4.4	0.50		-	4.4
4	効率的運用		2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	-	1.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング	-					
4.2	運用管理体制	-					
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.5
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器を主要水栓の過半に採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60		-	3.6
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材・床下断熱材、舗装・再生アスファルト	4.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAフロア採用	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1	消火剤	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50		-	
3	冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				0.30			3.4
1	地球温暖化への配慮	運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量を低減	3.6	0.33		-	3.6
2	地域環境への配慮		3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の採用なし	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保、駐車場内一方通行等、交差点を避け位置に出入口を設置	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音	-	3.0	1.00		-	
2	振動	-	-	-		-	
3	悪臭	-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制	-	-	-		-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの一部を満たし、広告物照明	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)長岡京物流センター計画

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	5.0	-	-	-	2.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標			
<b>Q1 室内環境</b>			
2.1.3 外皮性能		窓システムSC	窓の日射取得率(η)
		U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -
		住戸部分 窓システムU値	外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率		昼光率	0.0%
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率	3.3%
<b>Q2 サービス性能</b>			
1.1.1 広さ・収納性		執務スペース	.0m <sup>2</sup> /人
		病床	.0m <sup>2</sup> /床
		シングル	.0m <sup>2</sup> ツイン
		.0m <sup>2</sup>	
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量	0.0 VA/m <sup>2</sup>
1.2.1 広さ感・景観		天井高	2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース	0.5%
		レストスペース	2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数	0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔	0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔	20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔	0 年
3.1.1 階高のゆとり		階高	0 m
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率	0.0%
3.2 荷重のゆとり		床荷重	- N/m <sup>2</sup>
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数	38%
		建物緑化指数	0%
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率	43%
		水平投影面積率	8%
		地表面対策面積率	20%
		舗装面積率	33%
<b>LR1 エネルギー</b>			
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI <sub>m</sub>	0.53
		断熱等性能等級	対象外 相当
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m <sup>2</sup>
		採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
3 設備システムの高効率化		BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅 0.66
		住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率	0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目	ポリスチレンフォームエコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率	0.0%
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>			
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比	80%
		隣接間隔指標R <sub>w</sub>	1.09
		地表面対策面積率	32.0%
		屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
		見付面積S <sub>b</sub>	2.135m <sup>2</sup>
		卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	115 m
		基準高さH <sub>b</sub>	22.99 m
		緑地	906m <sup>2</sup>
		水面	m <sup>2</sup>
		保水性対策面	m <sup>2</sup>
		高反射対策面	m <sup>2</sup>
		再帰性反射対策面	m <sup>2</sup>